(案)

令和7年度葛飾区行政評価委員会 議事要旨

会議名	・飾区行政評価委員会 第1回全体会
開催日時	令和7年6月24日(火) 午前10時から12時まで
開催場所	・飾区役所新館7階 705・706会議室
出席者	【委員16人】 大石会長、小松原委員、鈴木委員、石戸委員、折登委員、尾澤委員、佐藤委員、高橋委員、江川委員、齋藤委員、関口委員、谷本委員、千田委員、宮田委員、柴崎委員、神尾委員 【区側8人】 区長、事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員5人)

会議概要

1 開会

2 委員委嘱

(区長から各委員に葛飾区行政評価委員会委員を委嘱)

3 区長挨拶(要旨)

平成14年度に行政評価制度を開始し、今年度で24回目となる。

バブル崩壊後の経済低迷・財政悪化の頃には行政改革が叫ばれ、人員やコスト削減など、財政の立て直しを進めた。その後、少子高齢化や防災対策などの新たな課題に対応するため、必要な予算を計上することになった。

区は、税金をいかに効果的に使うか、サービスを向上させていくかを求められている。そのためには、地域で生活し、活動している皆様の意見を聞くことが非常に有効だということがわかっている。審議いただく事業数は少ないが、いただいた意見を具体的に事業へ反映することはもとより、事業に対する考え方についても区政全体に反映させていきたい。

現在、区では、「子育てするなら葛飾区」の標語を掲げ、区民の意見を参考にしながら子育て支援の取組を進めている。また、多くの区民から「災害に強いまちを作ってほしい」という声があがっており、防災対策は大きな課題と認識している。

昨年度の行政評価委員会では、民間建築物耐震診断について議論いただいた。その結果、今年度から補助金の制度をより良い形に変更し、多くの区民から評価をいただいている。こうした改善によって、区内建築物の耐震性・耐火性が上昇し、「災害に強いまち」が実現していく。

今年度もぜひ活発な議論をいただき、皆様の意見を区政に活かしていきたい。年度末には、議論の結果が予算にどう反映されたか、今後どのように取り組んでいくかについて報告させていただく。このような見直しを毎年行うことで、より多くの区民が住みやすい葛飾区を実現できる。

令和7年6月1日時点での区の人口は約472,000人で、毎年3,000人程度増加している。中でも、20～30代の男女の人口が増えている。葛飾区が成長していくための施策を一步一步進めていきたいと考えているので、皆様のご協力をお願いしたい。

4 要綱説明

(事務局から・飾区行政評価委員会設置要綱について説明)

5 会長挨拶

6 委員紹介

(会長から委員の名前、選出区分及び所属分科会の紹介・政策経営部長挨拶・事務局職員紹介)

7 行政評価委員会の運営方法について

(会議の公開・会議の記録の公開・委員の名簿の公開・今後の日程について)

A 委員：議事録の公開に当たって、発言に責任を持ってもらう意味も込めて、各発言に対して委員の名前を公開したほうが良いのではないかと。

B 委員：私もA委員と同じ意見である。ほかの審議会でも各発言に対する委員名を公開している場合がある。

C 委員：これまで発言に対する委員名を伏せてきた経緯について、教えてほしい。

事務局：長い期間名前を公開していなかったため、当初からの経緯は把握していないが、発言に対して名前を伏せたほうが、自由闊達な意見交換ができる。ただ、一方、自身の発言に責任を持つという意味で、公開という選択肢もある。

大石会長：名前を公開することで、外部から名指しで質問され、委員が委縮

してしまい、自由に意見が出せなくなる可能性もある。皆さんの意見を聞いて決めたい。

B 委員：名前を公開することに賛成である。しかし、公募の際に、会議録は名前を伏せた状態で公開すると説明があったので、この場では決められないと思っている。次回募集をする際に「発言者の名前も公開する」旨を事前に伝えないといけないのではないか。

事務局：委員募集の際、公募のほか、団体推薦を依頼する際も、発言は無記名で公開する旨、伝えている。

大石会長：募集の際に公開に関する注意について説明することは必要だが、毎年、本委員会の委員となった人が公開の是非を、決めていくことが大事である。そのため、この場で判断したいが、いかがか。

C 委員：この場で公開の是非を決定したら、令和8年度も公開するのか。また、委員名を公開する年と公開しない年があるのはよいのか。

A 委員：行政が行っている事業を評価するために我々は委員を委嘱されているので、自分の言葉に責任を観点からも名前は公開しても良いのではと感じる。区民の一人として、名前を出すのが必然と思ひ、委員名の公開を提案した。

D 委員：私は反対である。発言に責任を持つというのはもっともであるが、議事録が外部に公開され、個人に問合せが来るのが怖い。例えば「ある園では」というあいまいな言い方をしたとしても、その人の属性を知っている人からは簡単に予想できてしまう。ポジティブな内容であればよいが、個人情報や不祥事に関する内容は、否定的に捉えられかねない。「発言が自分のものとして公開されるのであれば、発言を控えよう」となり、闊達な議論が期待できなくなってしまふ。ただ、委員の名前は要綱において公開されているので、責任をもってやっていることにかわりないのではないか。

A 委員：議事録は事務局で内容を調整した後に公開されているものである。

B 委員：今年度は、名前を公開しない前提で募集をかけている。この条件だから参加するという人もいるため、前提を変えると委員を辞めることにも繋がりかねない。

大石会長：委員会として全員が議論しているのだから、この場で決定したい。

事務局：今年度は発言者を特定しない形で議事録を公開するという約束で募集を行った。来年度以降は、やり方を検討していきたい。

D 委員：議事録を確認するステップの中で、自分の発言を修正したい場合に、事務局と相談して、内容を調整できるのであれば、発言者の名前を出すことにも賛成である。

大石会長：事前に公開していない旨を皆さんに伝えてしまっている経緯もあるようなので、今回は発言者の名前を伏せて、公開することとする。よろしくお願ひしたい。

8 行政評価委員会の概要について

(事務局及び大石会長から行政評価委員会の概要の説明及び質疑応答)

C 委員：評価表に「関連するSDGsゴール」の欄があるが、このゴールは、所管課で選定しているものか。ゴールの妥当性についても意見したほうがよいのか。

また、資料4-⑥に記載されている、再雇用職員の人件費単価について、令和4年度に比べ、令和6年度の単価が大幅に上昇している理由を教えてください。

事務局：SDGsゴールについては、昨年度の委員会の中でSDGsに関する意見があったため、掲載したものである。再雇用職員の人件費単価については、確認し、次回回答する。

E 委員：資料を読み解く時間は会議の中で設けていただけなのか。また、会議資料は毎回返却するのか。

大石会長：各分科会において、所管課から事業説明をしてもらう。資料は持ち帰って差し支えない。

F 委員：評価を希望していた事業とは違う分科会のメンバーとなってしまったが、人選はどのように行ったのか。

大石会長：会長の名の下で事務局とメンバー選定を行ったものである。メンバーの変更は行わず、このまま進めたい。他の分科会の事業について述べたい意見があれば、都度、受け付ける。

D 委員：私も、希望する事業の分科会ではなかったが、所属していない分科会の資料も配布されるのか。

事務局：この後、配付する。

B 委員：関心があれば、傍聴を希望する手段もある。

G 委員：資料4-⑥人件費単価（正規職員）780万円の内訳を教えてください。

事務局：基本的には、給料や社会保険料を含めた、正規職員全体で一年間にかかるお金を1人当たりとして割り返したものである。

9 分科会別打ち合わせ

(分科会ごとに分かれ、自己紹介と日程の確認)

10 その他

(事務局より事務連絡)

11 閉会